市民の皆様へ

2030 年の稲城に向けたご提案を受け付けています！

稲城市では 2030 年の稲城に向けて、長期総合計画を策定します。
あなたの考える 2030 年の稲城の将来像について、ご提案ください。
ご提案いただいた内容は、長期総合計画を策定する際、市民の皆様からのご意見として参考とさせていただきます。

ご提案はこちらから
https://www.city.inagi.tokyo.jp/cgi-bin/form_enq/formmail.cgi?d=chouki

個別の返答はいたしませんので、あらかじめご了承ください。

参加者の横顔

中倉さん
結婚を機に稲城に引っ越してきました。2 歳になる女の子を育てています。わくわく楽しくなるようなまちにできればと思います。

太田さん
山形県の出身で、将来的な目標・目的は山形と稲城の２拠点で、仕事や市のために活動して行きたという思いがあります。

西脇さん
日本各地を転々と引っ越し、稲城に住み6年、7年ぐらいになります。皆の交流ができるようなまちとして、一緒に見ていきたいと思います。

早川さん
ソフトウェアのエンジニアをやっています。多摩 11 市町村の地域の市民活動に関わっており、広い目で稲城市のことを考えたいと思います。

萩原さん
駒沢女子大学国際文化学科に在籍しています。緑が豊かで美しくて、綺麗な稲城市のことを色々皆さんと考えていけたらと思います。

これからの開催予定

第６回 平成 30 年 11 月 30 日（金）
時間：19：00 から
※概ね２時間程度を予定しています。
会場：地域振興プラザ４階　大会議室

・テーマ別討議Ⅱについて、グループに分かれ討議します。
テーマ⑦　ほどよく居心地の良いまち
テーマ⑧　安心して快適に暮らせるまち
テーマ⑨　誰もが活躍し輝くまち

2030年の稲城を描く
発行　稲城市
編集　企画部 企画政策課 長期総合計画担当
〒206-8601　稲城市東長沼 2111
☎042-378-2111（代表）　内線 532
e-mail　chou_kei5@city.inagi.lg.jp

稲城市長期総合計画

2030年の稲城を描く

No.5

市民会議　11月2日開催

第５回　市民会議を開催しました

11 月２日、地域振興プラザにおいて「2030 年の稲城を描く市民会議」第５回を開催しました。
討議テーマの意見を出し合った第３回市民会議の結果を踏まえ、第４回市民会議に引き続き３つのテーマに分かれて、意見交換を行いました。

2030年の稲城を描く市民会議

3つのテーマに分かれて意見交換

テーマ④
仕事も生活も稲城で

テーマ⑤
誰もがずっと住んでいたいまち

テーマ⑥
緑

グループ別の意見交換・まとめ

↓

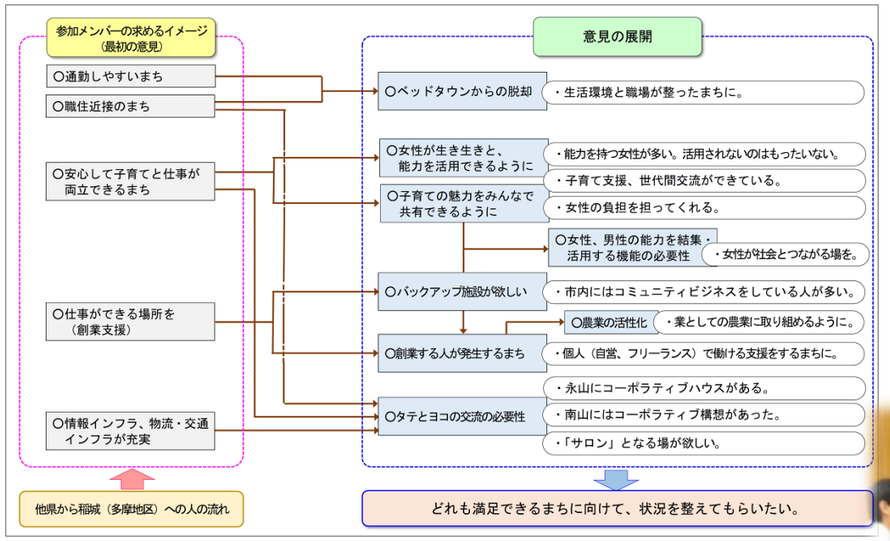
グループ別の発表・質疑応答

『テーマ別討議Ⅱ』について討議し、発表しました！

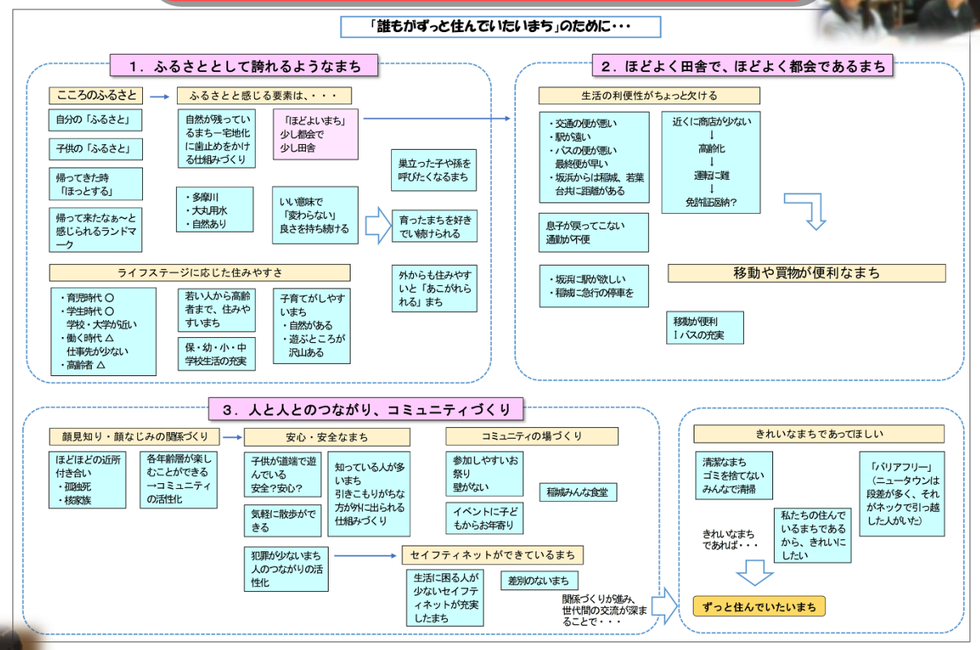
仕事も生活も稲城で～発表内容

○「仕事も生活も稲城」をなるべく実現したい人と、どうなんだろうという人に分かれた。
○子育て中の母目線からは、仕事も生活も稲城や多摩あたりで、そのようなまちになったら良い。
○大規模な企業が外からくるよりも、場づくりや、今はない働き方・仕事を稲城で生み出す必要がある。
○能力を活用出来ていない女性が多いと感じており、子育て支援を含め、稲城で出来ている世代間交流をもっと活用し、子育ての負担が地域全体で減らせるような流れになってもらいたい。
○稲城は、縦の交流は多いものの、横の交流が少ない。生活の中で昔の家族のような関係が実現出来るようなことを稲城全体で。
○個人で働きたい自営業やフリーランス等の人の支援が、もっと出来るようなまち。
○高齢者だけのまちになっては困るので、若い世代から年配の世代まで多世代交流のまちにして、ベッドタウンから脱却を目指し、人がずっと入れ替わっていけるようなまち。

テーマ④　仕事も生活も稲城で



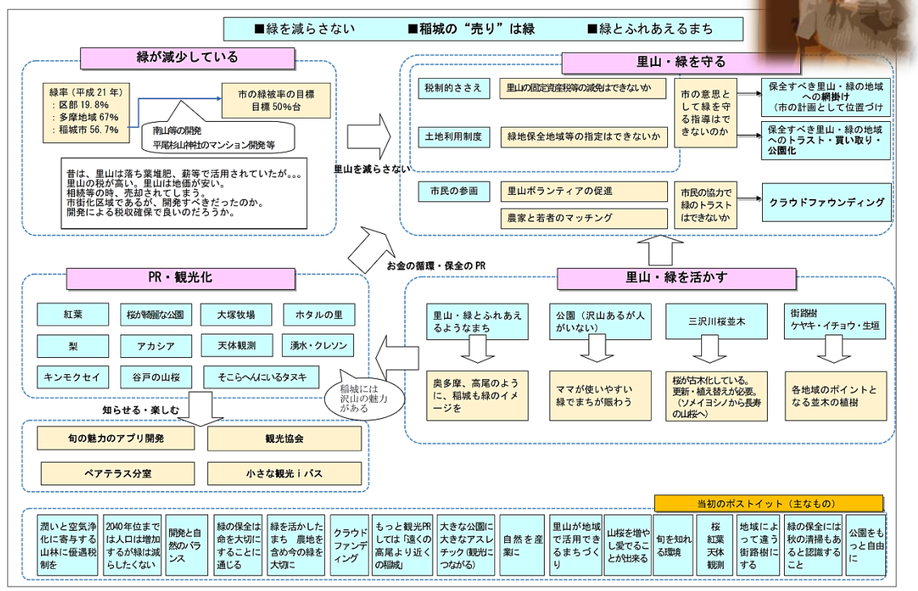
テーマ⑤　誰もがずっと住んでいたいまち



誰もがずっと住んでいたいまち～発表内容

○「心のふるさと」、「自分のふるさと」、「子どものふるさと」として、誇れるようなまちでありたい。それは、「ほどよく田舎」で、「自然と緑が残っている」ことではないか。
○そのことは、「育ったまちを好きでい続けられる」とか、「巣立っていった子どもや孫たちを呼べる」にもつながること。
○「ほどよく田舎でありつつも、ほどよく都会であったらいいな」といったテーマ。これは相反するところだが、稲城だからこそ出てくる話。
○「ほどほどの近所づきあい程度の顔見知り・顔なじみの関係ができるコミュニティ」づくり。
○顔なじみの関係が「安心・安全」にもつながり、例えば「子ども食堂」を拡大した「みんなの食堂」とか、稲城市に根付く「イベント・お祭り」なども活用し、世代を超えたつながりをつくることで、「住んでいたいまち」に。
○「きれいなまちであれば、ずっと住んでいたいまち」であり、「私たちの住んでいるまちであるから、きれいにしたい」と思う心が大きなポイント。
○推したい意見は、「コミュニティづくり」、「ほどほどの近所付き合い」、「顔が見える関係づくり」ができる中で、世代間の交流が深まり、「ずっと住んでいたいまち」に。また「ほどよく田舎、ほどよく都会」といった点も推したい意見。

緑～発表内容

○「緑の占める割合」の市の目標は 50%台を掲げているが、緑がとても減って来ているので、緑の維持が必要。
○緑で一番に思い浮かぶのは、一般市民の方が多く持つ「里山」である。他市の「里山」は税金や維持・管理費で所有者に大きな負担となっており、市が介入してサポート的なことをしたり、市の計画用地として保全をしたりすればと思う。
○公園も緑の一部なので、公園の維持や整備をする時、行政のサポートが必要である。
○サポートするのにもお金が必要であり、税金だけではお金が足りないので、資金集めとしてクラウドファンディングを検討してはどうか。
○最近、稲城市に出来た観光協会には、緑を活かした観光を押してもらいたい。三沢川のとても綺麗な桜並木、紅葉の綺麗な並木道があり、稲城の人しか分からない公園や観光名所があるので、そうしたものを活用して、観光の人々が増える稲城となってもらいたい。
○ｉバスの、観光名所をめぐる観光バージョンを走らせ、市内の名所を回れるようになってもらいたい。

テーマ⑥　緑